車・電車の運転手、パイロット、建設業など、専門技能職や力仕事に至るまで、女性の社会進出は目覚ましい。かつての性差による垣根を越えて、能力により好きな職業に就けることはよいことだと思う。しかし、そこで増えたのが男性の犯罪である。

大学入試や就職試験でも、女性の能力・集中力が高いゆえに、希望の道に進めず「学べない・働けない」男たちが社会からはみ出る。何とか就職したと思えば、女性に追い越されパワハラ・セクハラをする。気の毒なのは、就職の選択肢のない男たちである。昔は勉強の苦手な子は、人付き合いが得意だったり、手先が器用だったりして、商才や職人的技術を活かせる別の方面で活躍することができたが、いまは IT 人材育成に集中し、小学校から職業訓練的な授業が行われるなど、一律の枠にはめられ、個性を発現する暇もない。だから個性にそぐわぬ苦手な勉学を強いられた結果、ついていけない男たちはノイローゼや自殺、他人へのいじめ、果てはむしゃくしゃして傷害事件を起こすケースが増えるのではないだろうか。また女性優位になるほどに恋愛も遠ざかり、それが性犯罪につながるのではないだろうか。「あのいい子が何故」という事件が多いのは、そういうことにも一因があるのではないかと思う。

「一家の大黒柱」時代の定職を持った男性は、威張っている半面、家族の生活を支えることができた。一定の拘束の中にも安定があった。しかしその後に流行った「自由な働き方を求めたフリーター」は、景気の変動と女性の社会進出によって職業に就きづらくなった。ゆとり教育では、その自由時間を自分を向上させることに使った人と、遊んだ人で大きく道が分かれた。何事にもリスクはある。それを見据えた人と見送った人では、その後の人生に大きな隔たりが生まれた。世の中は女性を働かせることばかりに力を入れるが、定職を持てない男の安定を図らなければ、少子化も解消できないし、犯罪も減らない。パワハラ・セクハラ・殺人、オレオレ詐欺も、犯人は男ばかり。女性は細かいが、男性の大まかさが裏目に出たのはデータ改ざんや談合。中年男はとかく気が緩みやすい。少子化を嘆く一方でマタハラをする。「男の方が女より偉い」という時代錯誤の意識がこびりついている男だけが、肩書という洋服を自慢してふんぞり返る。その洋服を脱げば、どんな中身が残っているだろうか。

さて、私が職場で出会った「緩んでいない」男たち。彼らに共通するのは潔さ・向上心・自他を尊重する意識。20 代から 60 代まで、実に爽やかな印象である。しかも若々しい。男女に関わらず、何か問題が生じた時、まず他人を責める人がいるが、そういう人は後で自分の間違いだったと気付いても黙っている。自己防衛だけに走る人は、パワハラの隠れ予備軍である。自分に自信を持てる人生を作ることが人間として真の「独立」であり、真の実力である。

さて、女性活躍時代。専業主婦を蔑む人がいるが、私は専業主婦も立派な職業だと思う。家族のスケジュールに気を配る秘書、病人が出れば看護師・介護士。掃除洗濯をこなす家政婦、栄養士兼調理師。母であれば保育士、時には子供の勉強を見る家庭教師かもしれない。職業に当てはめてみればかなり兼業している。それらすべてが社会で働くほどの密度でないにしても、そこに「働く」は存在している。

人間は欲の動物である。その欲が良い方向へ向かえば発展する。「働く女」の環境整備と、「働けない男」を「働ける男」へする道の創出が必要である。　(2018.8.26)